

ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会 四国地域懇談会 ～ 観光の視点から考える ～



道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 会長 宮崎光彦

1

I 道後温泉の概要

1 道後の現況 (H24.5.23)

- 旅館組合加盟稼働施設 32軒 (総客室数1,419室 定員6,427名)
- 道後温泉への宿泊客数

H23年	約 76.6万人	(対前年度 - 4.5%)	23年度78.1万人
H22年	約 80.2万人	(対前年度 +4.2%)	22年度78.7万人
H21年	約 76.9万人	(対前年度 -3.2%)	21年度78.1万人
H20年	約 79.4万人	(対前年度 -2.9%)	20年度78.9万人
- 推移

S63年	約138.9万人 (61軒 2,039室 8,830人)	・ ・ 瀬戸大橋開通
H11年	約129.9万人 (47軒 2,136室 9,187人)	・ ・ しまなみ海道開通
H13年	約 89.1万人 (37軒 1,714室 7,679人)	・ ・ 芸予地震
- 道後温泉 (本館・椿湯) への入浴客数

H22年度	約110万人 (内 本館744・椿356千人 対前年-5.7%)
H11年度	約147万人
- 発地割合



— 国外 1%

(国外内訳 : 韓国20% 北米10% 台湾50% 欧州10% 中国5% 他5%)

I 道後温泉の概要

2 道後温泉の歴史

596年(法興6)	聖徳太子	伊予温泉に来浴 (伊予風土記逸文、釈日本記)
639年(舒明天皇11)	舒明天皇	行幸 (日本書記)
661年(齐明天皇7)	齐明天皇	行幸 (日本書記)
815年《平安》	四国88か所霊蹟	宿坊
1638年(寛永15)	松平定行	道後温泉施設を拡充 1745年 道後温泉湯治宿 125軒
1890年(M23)	伊佐庭如矢	道後湯之町 町長就任(M22町村制実施)
1894年(M27)		道後温泉本館建築【3層楼へ】
1899年(M32)		霊の湯、又新殿 新築落成
1944年(S19)	道後湯之町	松山市に合併
1950年(S25)	天皇陛下	行幸、入浴(3.19) 8回国民体育大会 71軒
1956年(S31)		新源泉掘削 配湯施設完成 旅館の内湯実現
1964年(S39)		温泉センター開業 (~S43)
1966年(S41)	道後温泉財産区廃止	市公営企業会計に 現特別会計
1981年(S56)		子規記念博物館を開館
1984年(S59)	椿湯を改築(M25	松湯→T11西湯→S28初代椿湯)
1992年(H 4)		道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 発足
1994年(H 6)	道後温泉本館建築百周年・国重要文化財指定	カラクリ時計建設
2007年(H19)		道後温泉本館周辺道路整備工事 完了
2012年(H24)		第3の外湯プロジェクト第2次案『道後飛鳥の湯』策定 市へ提言

I 道後温泉の概要

歴史的空間整備計画と復元したいテーマ

歴史的温泉施設群

■ 神代・古代

・白鷺による岩間から噴出する温泉発見の伝説

【温泉自噴の様子を足湯として再現】

・大国主命と少彦名命の伝説

■ 飛鳥～奈良期

・聖徳太子来湯(西暦596年)

【太子の湯】

聖徳太子来の温泉碑文に基づき、露天風呂・温泉施設等を想像復元

(第3の外湯プロジェクト『道後飛鳥の湯』として最優先施設)

聖徳太子碑



聖徳太子と湯の岡の碑文



玉の石



【女帝の湯】道後飛鳥の湯との複合PJ

・万葉集と熟田津の由来

額田王が詠んだ

「熟田津に船乗りせむと月待てば
潮もかなひぬ今はこぎ出でな」の歌

【額田王の湯】

額田王の像も併せ足湯整備。



■ 平安期 【伊予の湯桁】

伊予の湯桁

源氏物語の「空蝉の巻」「夕顔の巻」に記載され、物の数の多い例えとされた「伊予の湯桁」を想像復元。



■ 鎌倉期 一遍上人と生誕の地宝厳寺【上人の湯】

宝厳寺の門前に当時の湯を復元。上人坂の再生

宝
厳
寺



■ 室町・戦国期【湯泉館(ゆのたち)】

・河野家の残した中世の城郭・湯築城跡に中世河野氏経営の温泉施設を復元



湯築城跡



一
遍
上
人
と
湯
釜

■ 江戸期【松山藩の湯】

- ・松山藩と明王院における温泉経営
(松平定行は松山藩繁栄の基礎は道後温泉にありと着目、温泉場の建物を増やすなど、発展に尽力した)
温泉施設を充実した松平定行公 縁の温泉施設を復元



I 道後温泉の概要

3 道後温泉の特色

- ①多様なニーズに応えられる多様な旅館ホテル群 (7~125室)
- ②道後温泉本館を中心とした外湯文化 **源泉の所有・管理者が松山市**
源泉 12~17本利用/28本 55度~20度 (非火山性としては出色)
- ③旅館と商店街との連携による 街歩きの楽しさ創出
- ④日本最古の温泉としての歴史的な深みと景観整備の進展
- ⑤都市型温泉郷・県庁から2km 空港・港から30分(ビジネス需要)

4 お客様の動向

- 発エリアの変化 ⇒ 関東(首都圏)からのお客様の割合増加
- 形態の変化 ⇒ **個人化** 若年層:ビジネス客・教育旅行の増加
- 利用時期の変更 ⇒ 間際化:週末型の増加
- 予約形態の変化 ⇒ インターネット利用の拡大
- 社会経済環境の影響 ⇒ デフレ・不況・高速道路割引迷走・海外との競争
東日本大震災・原発事故

I 道後温泉の概要

5 トピックス（松山市含む）

- NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」第3部放映終了 ⇒ 地域の**宝磨き**
- 道後温泉本館周辺整備、ファサード・県市道整備、電線類地中化の進展
- 道後温泉本館が 連続 ミシュランの観光3ツ☆認定
- 第3の外湯プロジェクト『**道後飛鳥の湯**』市へ提案
- 上人坂 命名・愚陀仏庵復元誘致 活動
- 松山はいく、瀬戸内・松山構想の展開(瀬戸内海道1号線 命名 具現化)



II 観光まちづくり・・・交流人口拡大の視点

1 少子高齢化と人口減少社会での観光産業振興の方向性

(1) 宿泊客確保の手段

- ①新規顧客の開拓（未開拓エリア・新しい層）
- ②リピーターの確保
- ③連泊・滞在時間の拡大
- ④外客誘致（グローバル化の進展 ミシュラン格付け）

(2) 売上げ確保の法則

$$\text{売上} = \text{商品力(品質と価格価値)} \times \text{販売力}$$

(3) 自助努力・企画販売の深化・ICTの利活用

- ・目的別体験型プランの設定 「泊まる プラスα」
- ・地域タイアッププラン ヘルス、ネイチャープログラム

(4) 旅館と地域の魅力の再構築 “街づくりは店づくり”の二つの意識

(5) まちづくりへ取り組み

- ①“**温泉地力**” “**地域力**”の強化
観光地の満足度が旅館の満足度に加算
各施設の商品価値向上＋地域の魅力(時間と空間)づくり
- ②個々の旅館のポリシーの明確化と多様化

Ⅱ 観光まちづくり・・・交流人口拡大の視点

2 観光まちづくりのための空間整備戦略 の 考え方

21世紀は観光の時代・・・景観をはじめ街の魅力で競う地域間競争の時代。
価値ある文化的・空間的資源なくして地域の活性化は望めない。

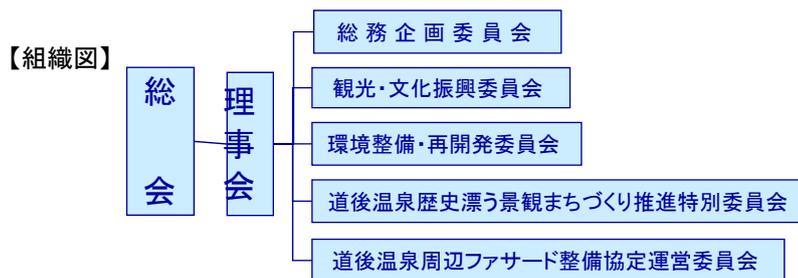
美しく文化的に豊かなまちの環境が人々の感性を磨き、おもてなしの心を育て、
観光地としての心地よい時間と空間を創造、発信していく土壌になる。
街の生活文化の高さや魅力が、市場価値を高め、観光産業・交流文化産業の
発展の母体となる。 (ICTの利活用)

美しく魅力的で活力のある都市型温泉郷空間の実現を目指し、
本物を生かした歴史漂う景観づくりを進める。

道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言「道後百年の“景”」
の 着実な実現

Ⅲ 「道後温泉誇れるまちづくり推進協議会」の活動

1 組織 特別会員34 正会員91(別途33旅館組合員+56商店街組合員) H4.8.28設立



- 2 実績
- 04. 08 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会 発足
 - 06. 03 第1次 道後グランドデザイン 策定「クラシックスパ道後」
 - 13. 10 坊っちゃん列車運行開始 / 13. 12 足湯順次完成
 - 14. 06 第2次 道後グランドデザイン21 発表
「DO! GO! 21~クラシック&モダン・道後をめざして~」
 - 18. 06 道後温泉歴史漂う景観まちづくり宣言『道後百年の景』採択
 - 18. 09 「ファサード整備協定書」「景観まちづくりデザインガイドライン」策定
 - 19. 03 道後温泉本館周辺整備(道路付替え、東屋ほか) 完成
 - 21. 03 道後温泉周辺ファサード整備事業 完了 (約8割 39/49件)
 - 22. 03 女帝の湯プロジェクト 第1次 完了
 - 23. 10 温泉街県道の 一方通行一部解除
 - 24. 03 第3の外湯プロジェクト第2次案『道後飛鳥の湯』策定 市へ提言

Ⅲ-2 景観整備の歩み

屋外広告物の自主撤去



(1) 愛媛銀行 屋上広告



(2) パチンコ丸の内 屋上広告



Ⅲ-2 景観整備の歩み

歩行者優先空間創出

(3) 道後温泉本館周辺 整備前後



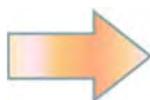
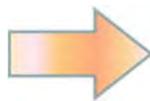
Ⅲ-2 景観整備の歩み 歩行者優先空間創出

(4) 現在の道後温泉本館周辺（湯神社・空の散歩道から又新殿）



Ⅲ-3 ファサード整備の実績

整備事例 道後温泉本館前（上） 道後温泉駅前（下）

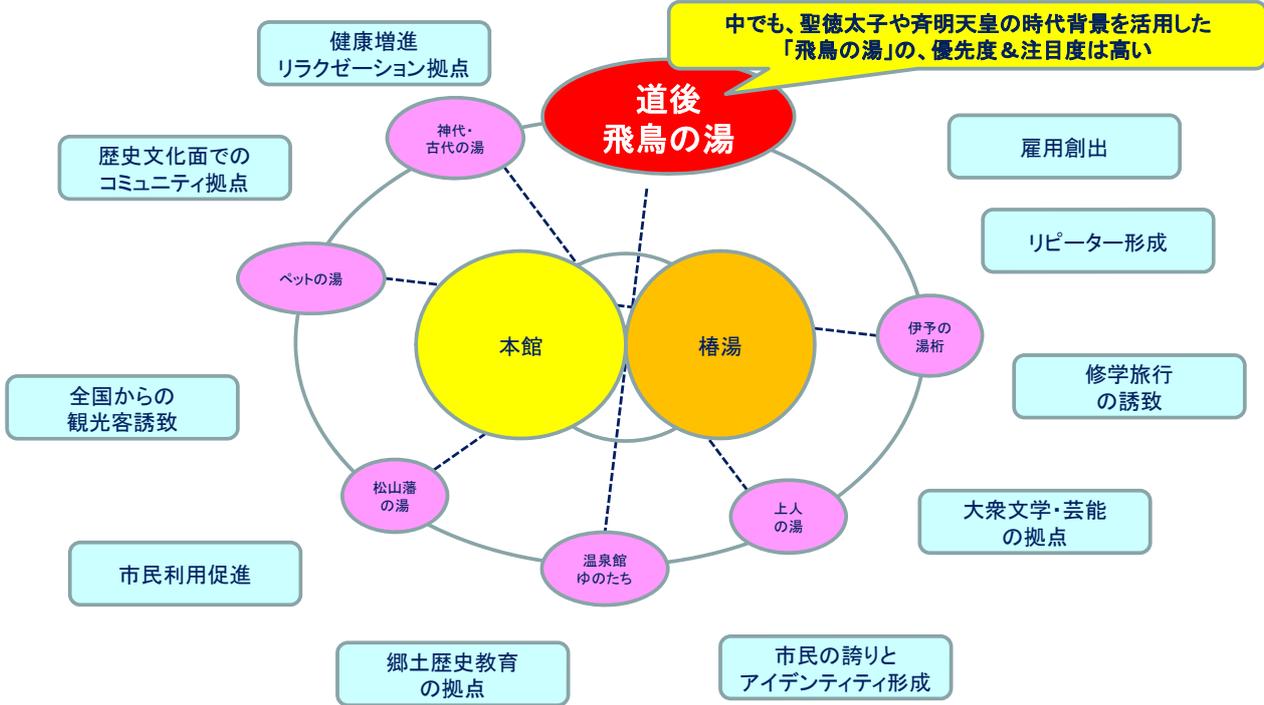


駅前バス停 ローソン ハイカラ通り商店街入口

Ⅲ- 4 道後温泉 歴史的温泉施設群 整備構想

「歴史的温泉施設群」構想は、既存の道後温泉本館および椿湯と連携し、新しい魅力創造を実現する歴史的温泉施設をサテライト拠点とした都市型温泉郷空間を形成する考え方
 回遊型入浴スタイルの構築により、「新道後スタイル」の形成を目指し、まずは、単独ではなく

①道後温館本館 ②椿湯 ③新たに建設する歴史的温泉施設 の、3館トータルによる総合的活用を目指す。



「歴史的温泉施設群」 = 「道後 飛鳥の湯」の建築イメージ図



IV 道後温泉のまちづくり と 観光振興

(1) 湯巡り 足湯・手湯めぐり (H13年～ 足湯11 手湯1 計12)
 旅館の内湯めぐりクーポン
 道後温泉本館入浴券セットプラン
湯籠の共同購入 浴衣の似合う街づくり



道後温泉湯めぐりチケット～おもてなし道後「以心伝心」サービス～



小人(2~11歳以下)
500円



大人(12歳以上)
880円

道後温泉本館
「霊の湯」入浴券
+
道後温泉
「湯3味」
= 湯3味
道後温泉3湯巡り
選べる2ヶ所の宿湯



「おもてなし道後以心伝心」
サービスって？

道後にご宿泊のお客様対象の
“ほっ”とする、10の心づくしサービス。

- ①湯めぐり
- ②足湯
- ③休み処
- ④お手洗い
- ⑤授乳/おむつ交換
- ⑥旅情報の提供
- ⑦インターネット使用
- ⑧車椅子
- ⑨ベビーカー
- ⑩雨傘

…の“ほっ”

IV 道後温泉のまちづくり と 観光振興

(2) まち歩き

道後村めぐり (4コース 30か所)

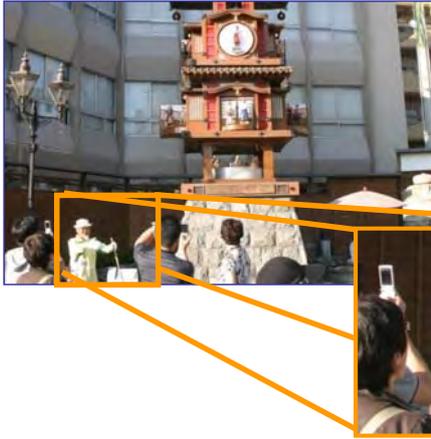
坊っちゃん・マドンナ姿でのお出迎え

ボランティアガイド (登録174名 お城155 道後102 両方82人)

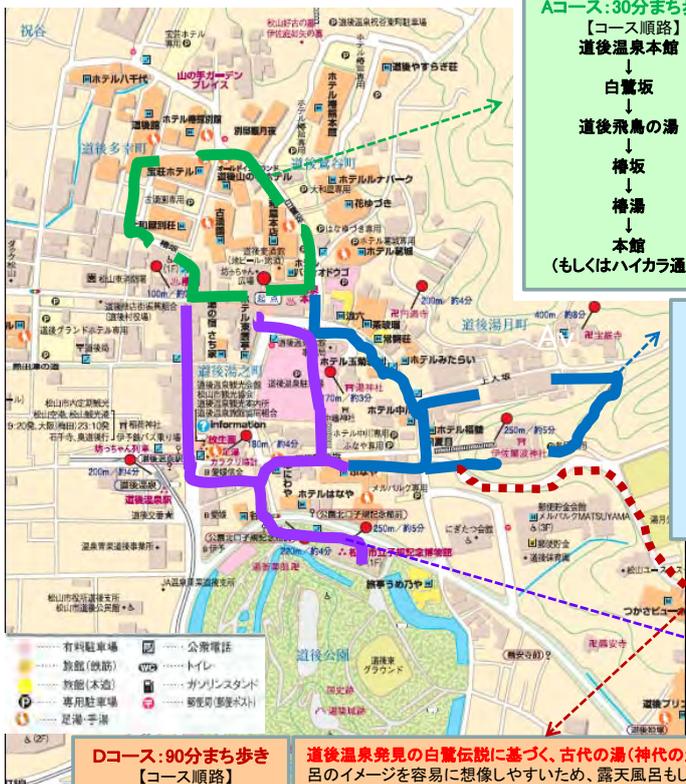
商店街お買い物券、お休み処 の設置、ギャラリー (砥部焼)、松山観光コンシェルジュ検定 (初・中級)

名誉村民3万人

街角案内人



「歴史的温泉施設群」施設建設によって見込まれる、地域まちづくりのイメージ



Aコース: 30分まち歩き
 【コース順路】
 道後温泉本館
 ↓
 白鷺坂
 ↓
 道後飛鳥の湯
 ↓
 榑坂
 ↓
 榑湯
 ↓
 本館
 (もしくはハイカラ通り)

道後温泉本館の代替施設となることが求められ、道後旅館ホテル街の北端に位置するエリア。徒歩圏内200~500m以内にほとんどの旅館ホテルが集中し、街灯や道路も整理され、人通りも多い。観光客などの集客力もある

本館を中核とした徒歩30分圏内のまち歩きコース形成が可能に。湯宿を含めた「湯巡り散策」コースとして、今後、最も人気が高まることが予想される。ハイカラ通りへ足を伸ばすことで、ショッピングエリアを加速でき、利便性・集客ともに強い影響をもたらすことが見込まれ、滞在時間増大による消費拡大にも影響し、回遊性・周辺立地条件にマッチングする展開が予想される。

聖徳太子は全国ブランドであり、その知名度・認知度は、非常に高い。このエリアでの「道後飛鳥の湯」建設は、本館改修工事の代替施設として非常に高い可能性を秘めている。

Bコース: 60分まち歩き
 【コース順路】
 道後温泉本館
 円満寺
 上人坂
 上人の湯
 宝蔵寺
 伊佐爾波神社
 湯神社・中島神社
 空の散歩道
 本館

聖徳太子に次ぐ全国的な人気のある(特に関東方面での人気のある)「一蓮上人」と、そのゆかりに地・時代背景の道後をテーマに、施設建設、まちづくり開発、旅行商品造成をプロデュースできる選択肢が増える。

一蓮上人の知名度を活かすだけでなく、愚陀仏遷移転落致の可能性、回遊ポイントの東南端という立地条件だけでなく、地域内に宝蔵寺、伊佐爾波神社、円満寺などの、歴史的・文化的・観光的ポイントも多く、地元にはあまり知られていないが、魅力ある地域まちづくりが可能である。

Cコース: 90分まち歩き
 【コース順路】
 道後温泉本館
 ハイカラ通り
 道後温泉駅
 放生園・からくり時計
 子規記念博物館
 ペットの湯
 伊佐爾波神社
 湯神社・中島神社
 空の散歩道
 本館

本館~商店街~子規博という文化的・観光振興的な楽しみ方を体験できるコースであり、現在も1時間以上の滞在散策コースとして人気である。

既存の足湯巡りに加え、ペットの湯などの楽しみ方が増えることで、その楽しみ方や満足度は増幅させることが可能となる。

Dコース: 90分まち歩き
 【コース順路】
 伊佐爾波神社
 古代の湯(神代の湯)

道後温泉発見の白鷺伝説に基づく、古代の湯(神代の湯)は、自噴する岩風呂のイメージを容易に想像しやすいため、露天風呂もしくは広い敷地での岩風呂再現が、時代背景&用途との相性に基づく立地条件に求められる。その点で、このエリアの自然環境&敷地面積は、ベストマッチと言える。

但し、他のエリアとの距離があり、相互間移動を補完するアクセス面での補助が不可欠であり、コスト&メンテナンスでの工夫が必要であるが、駐車場を完備し、東端のアプローチとしての機能を担うなどの展開も考えられる

春夏秋冬 そして 子規。「俳都・松山」には、5つの「しき」がある。

松山はいく

ガイドと行くまち歩き

おすすめコース

道後で5つの「しき」を感じる

【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:30(120分)
 【集合場所】道後・放生園(集合場所) ◆
 【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:30(120分)
 【集合場所】道後・放生園(集合場所) ◆

おすすめコース

子規と兼石が愛した松山スイーツ

【参加費】1人様あたり、3,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】9:00~12:00(120分)
 【集合場所】道後・放生園(集合場所) ◆

おすすめコース

子規と兼石の松山はいく〜お城下から道後温泉へ〜

【参加費】1人様あたり、1,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:10(120分)
 【集合場所】松山城ロープウェイ駅(集合場所) ◆

道後・松山はいく〜お城下から道後温泉へ〜

1階と2階の両方に設けられた大展望台から、お城下と道後温泉の絶景を一望できるコースです。子規や兼石が愛した松山スイーツを味わいながら、お城下と道後温泉の絶景を堪能してください。

【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 16人
 【出発・到着時間】9:30~11:30(120分)
 【集合場所】道後・放生園(集合場所) ◆

道後の内宮・西園寺の所蔵品を鑑賞する

【参加費】1人様あたり、1,000円 ◆定員 16人
 【出発・到着時間】9:30~11:30(120分)
 【集合場所】道後・放生園(集合場所) ◆

子規の青春はいく

【参加費】1人様あたり、1,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:10(120分)
 【集合場所】松山城ロープウェイ駅(集合場所) ◆

お城下から見る「お城」の風景

【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:10(120分)
 【集合場所】松山城ロープウェイ駅(集合場所) ◆

お城下から見る「お城」の風景

【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:10(120分)
 【集合場所】松山城ロープウェイ駅(集合場所) ◆

お城下から見る「お城」の風景

【参加費】1人様あたり、2,000円 ◆定員 8人
 【出発・到着時間】10:10~12:10(120分)
 【集合場所】松山城ロープウェイ駅(集合場所) ◆

電話予約・お問い合わせ先

松山はいく事務局 〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目12-10
 FAX:089-934-6626

089-945-6445

受付時間/10:00~17:00 休/日・祝

WEB予約

パソコンから 松山はいく 検索

携帯電話から

14コース 好評実施中

パワースポットはいく NEW

出発・到着時間	13:30-16:30(3時間)
料金	2,000円/1名 (ガイド、ロープウェイ代、松山兄弟生誕地入場料、バス・焼き餅代含む)

1 松山城

城を見上げ、大志を抱き旅立った偉人達の底知れぬパワーを体感。秘めたる力を呼び覚ましてくれる旅のスタート地点。



7 道後温泉本館

大国主命が病気の少彦名命を道後の湯で温めると、たちまち元気に石の上で踊りだしたという伝説の石。神石といわれ無病息災を祈願。



2 秋山兄弟生誕地

教育者としての夢を実現した好古、大戦略家の真之。向き合う銅像からパワーをチャージ。



6 円満寺

東大寺の大仏を彫った行基作のインパクトのある大仏。結ばれた縁はかけがえのない宝物。人を大切にすることを磨く。



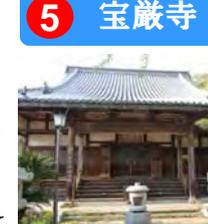
3 石手寺

約1,200年前、弘法大師が除災のために開いた霊場。四国遍路発祥の伝説の寺で「お砂撫で」し、88ヶ所の癒しを。



4 伊佐爾波神社

金的を射止めた褒美として建立された日本三八大幡造りの社殿に奉納されてきた算額。数字と勝負運に強くなる。



5 宝蔵寺

踊り念仏で知られる時宗の開祖一遍上人の生誕地。緑に包まれた静寂のひとときに心は浄化され、人のために生き抜く強さを無の境地から悟る。



IV 道後温泉のまちづくり と 観光振興

(3) イベント

道後温泉郷土芸能イベント お湯かけ祈願 湯あがり朝市、道後寄席、
砥部焼絵付け体験、道後春夏秋冬・初子祭り 神輿鉢合せ、マドンナ神輿、温泉卓球



(4) 2次交通整備

坊っちゃん列車、マドンナバス、イベントバス運行(スカイバス)
拠点連絡バスの運行(空港・観光港リムジン)



V 「道後温泉地域での ICT 利活用実績」

2004.3. 1 国土交通省の「広域的な公共交通利用転換に関する実証実験実施計画」の一つとして「**松山都市圏におけるICカードを用いた都心部公共交通と観光施設などの連携による公共交通利用転換実証実験**」が、(株)伊予鉄道の市内電車・市内ループバス並びに一部の松山市内の観光施設で実施。

～8.31 上記実験を終了(当時実験対象となった観光施設は、県立美術館、松山城ロープウェイ・リフト、天守閣、子規記念博物館、子規堂、道後温泉本館。現在「ICい〜カード」が使えるのは、大観覧車「くるりん」のみ。

2005.02 道後温泉地域では、**電子マネー「Edy」**を温泉観光街としては日本で初めて導入し、浴衣姿でゆっくり散策しながら買い物や温泉施設への入場もできる環境づくりを整備。(道後温泉の旅館23軒と商店街55軒)
(協力・・・ビットワレット、ANA、NTTドコモ)

2005.08 伊予鉄道が、FeliCaを利用したICカードシステム「**ICい〜カード**」とおサイフケータイ対応の「**モバイルい〜カード**」をスタートし、市内線及び路面電車、伊予鉄グループのバスとタクシーで利用。異なる交通手段が1枚のシステムで繋がりが、日本の鉄道・バス事業者のサービスとしては全国初。JR東日本の「モバイルSuica」導入や、Suica/PASMO相互利用が首都圏で始まるよりも早く実現。

2005.11 ICい〜カード定期券導入。自動チャージ機導入。

2006.9 いよてつ高島屋などでショッピングにも(電子マネーとして)利用可能。

2009.10 グループ内の中島汽船、石崎汽船でもサービス開始。

V 「道後温泉地域での ICT 利活用実績」

2009.11 経済産業省の情報大航海プロジェクトにおける『e空間サービスぷらっとPlat 実証』事業の一環として「松山市・道後温泉エリアPUSH型観光情報サービス～10.2 実証実験」が道後温泉のホテルや道後商店街、観光施設を対象に実施。

●位置特定のためのデバイス



無線マーカ



RFIDタグ



GPS



ユビキタスタス・コミュニケーター



マルチレシーバ



GPSレシーバ

1) 申込

貸出の際、事前アンケートを実施。(氏名・住所・電話番号・性別・年齢、旅行形態など)

2) 貸出

UCを利用者に渡し、使い方・コース概要を説明。ヒアリングし、目的に合った観光コースを提案又はコース設定し送り出す。端末器使用に際し言語と属性情報の入力と出発地を認識するタグを読み込んで頂いた。また、UCの使用説明とコース概要掲載パンフレットも提供。

3) 使用方法

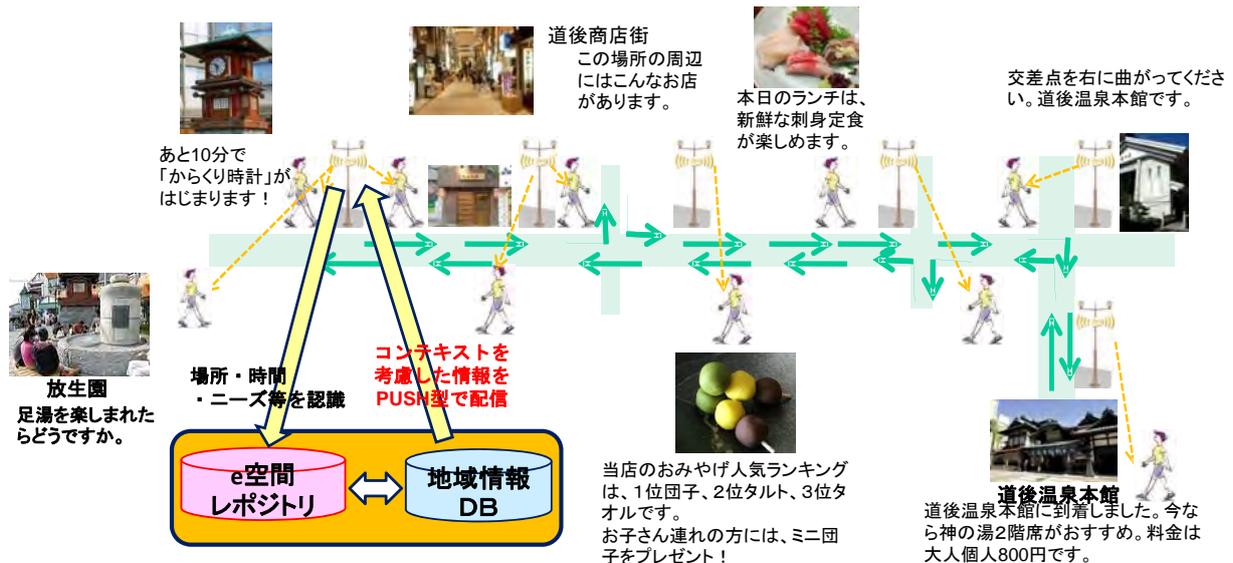
UCを持って歩いていくと、無線マーカを読み取り、その場にふさわしい情報が自動的に画面上に表示される。選択した観光コースにそって、観光スポットまでの道順を画面上と音声で道案内し、目的地に着くとその案内情報を表示する。商店街では、リーダーを店頭RFIDタグにかざすと、そのお店のおすすめ情報やクーポンを画面上に表示する。それぞれ利用者の属性を考慮した内容の情報が表示される。

4) 返却

実験体験後は、貸出場所にてUCの返却の際に、事後アンケートを実施。

PUSH型観光情報提供サービスのイメージ

■実験概要：属性や時間にあわせたオススメ観光情報を自動で配信



◆道後商店街『手打ちうどん 道後亭』にて

男性・女性それぞれが店頭のタグをタッチ。



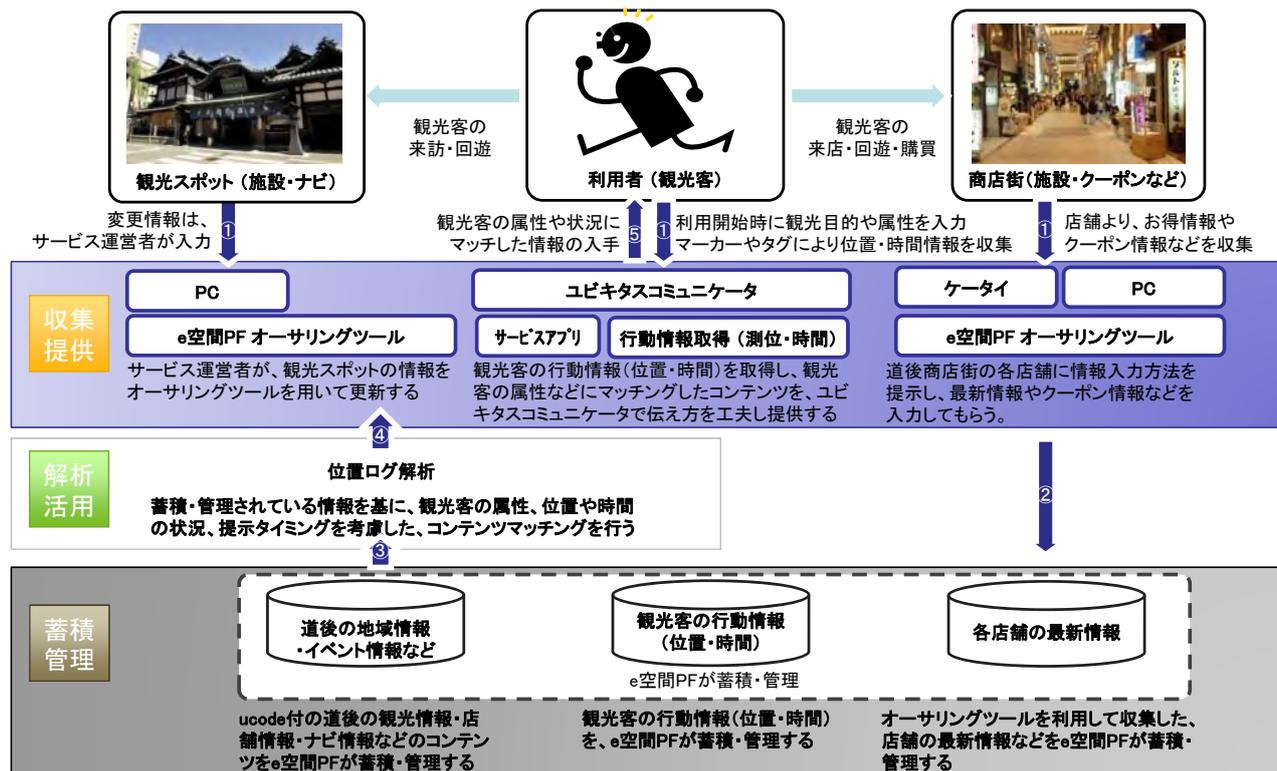
なべやきうどん&みそなべうどん以外すべて大盛り同一料金なのでよく食べる男性も大満足のボリュームです。

明るい女性の店長さんが迎えてくれるので、女性1人でも気軽に入りやすいですよ。



同じ場所でも男性・女性で違う内容の情報を配信

PUSH型観光情報提供サービスのシステムの全体像



V 「道後温泉地域での ICT 利活用実績」

2011.07 「えひめ・道後温泉」宿泊施設スマートフォンサイト構築による
 ~12.03 集客力向上事業開始(主体:JTB協定旅館ホテル連盟愛媛支部)

- ① 県内宿泊施設21施設の公式ホームページを一斉にスマートフォン化、宿泊施設情報(コンテンツ)の質的向上を実現
- ② 「スマートフォンユーザー」をターゲットとした愛媛県観光情報・宿泊予約サイト「えひめたびいんふお」を活用したダイレクトマーケティング事業を展開及び県周辺エリアの観光情報(スマートフォン化対応)発信・PR展開
- ③ 県内宿泊施設21施設の公式スマートフォンサイトを広報宣伝。NTTドコモやJTBと提携し、効率的・効果的な告知・広報事業を展開。
 (2年目は、四国島内に拡大、専用アプリ運用予定)



《目的》

県内各地域・施設の優れた商品コンテンツ(温泉・グルメ・自然・癒しなど)を武器に、地域の観光情報をPR・認知させるとともに、スマートフォンの持つ特性(美しい映像、地図情報との連動によるドライブ旅行やまち歩きとの親和性、ホームページ・ソーシャルネットワーク等へのアクセスが容易であることなど)を活かし、新たな客層へ新たな手法・チャネルを持って集客力の向上を図る。

V 「道後温泉地域での ICT 利活用実績」

1 宿泊施設スマートフォンサイト 構築・制作例



2 NTTドコモ pamphlet を活用した 広報展開



3. スマートフォン対応愛媛県観光情報・宿泊予約サイト



えひめたびいんふお



V 「道後温泉地域での ICT 利活用実績」

2011.10 スマホで簡単 愛媛の観光情報

『GEN1000(げんせん)愛媛観光スポット』の提供を開始。(愛媛県観光物産課)

位置情報システムを活用し、スマホを向けた方向の観光施設やイベント情報を簡単に検索できるサービス。

GPS機能で現在位置を取得し、AR(拡張現実)技術を用い、簡単に周辺の観光地を探し出すことが可能。ジャンルや現在地周辺などニーズに合わせて観光スポットへ案内。

スマートフォン専用の拡張現実アプリ『Layar』を利用。

利用者の現在地と携帯カメラを向けた方向のデータをもとに、利用者が指定した圏内の観光情報を表示できる『リアルビュー』機能が特長。

『食べる』『遊ぶ』などの項目別に施設の写真や概要、ルート名が表示。

また、平面地図上に観光施設の場所を示す『マップビュー』、写真と紹介文を一覧表示する『リストビュー』機能も備える。

ナビゲーション機能・・・現在地からお目当ての場所までのルートをマップで表事さらに詳しい情報取得 観光スポットの詳細ページから公式サイトリンクや電話発信が可能。より詳細な情報をスムーズに取得可能。

大手SNSとの共有 Facebook や Twitter との連携がワンタッチで可能

その他 : 各旅館ホテルで WiFi 環境の整備中

V 「道後温泉地域での ICT利活用 推進実績」

『GEN1,000(げんせん)愛媛』リーフレット



～愛媛県内の厳選した観光スポットへご案内～

GEN1,000 愛媛

●アプリご利用可能エリア
スマートフォン | iPhone | Android | 対応機種は必ずご確認ください。

県内1,000箇所掲載 愛媛県の観光地を1,000箇所掲載し、今まではなかったカットで観光地を紹介する。最新の観光地も随時追加される。	ナビゲーション機能 現在地からお目当ての場所までのルートマップを表示。目的地の詳しい情報も表示される。	Layarインストール方法 ●iPhoneをご利用の場合 ① App Storeから「Layar」をダウンロード。 ② 「Layar」をインストール。 ③ 「Layar」を起動。 ●Android機をご利用の場合 ① Android Marketから「Layar」をダウンロード。 ② 「Layar」をインストール。 ③ 「Layar」を起動。
観光地のジャンル化 ジャンル別に観光地を分類し、検索しやすくなる。	さらに詳しい情報も! 観光地の詳細ページから、写真や地図、地図表示機能など、より詳しい情報を確認することができます。	大手SNSとの共有 FacebookやTwitterなどのSNSと連携し、観光地の情報を共有することができます。



スマホでカンタン! 観光案内

カスタマイズが得意なだけ!

GPS機能で現在位置を取得し、AR(拡張現実)技術を用いて、カンタンに周辺の観光地を探し出すことができます。ジャンルや現在地周辺など、あなたのニーズに合わせて観光スポットへご案内いたします。

リアルビュー 自分の視点で探せる	リストビュー 写真と紹介文で探せる	マップビュー 見慣れた地図で探せる
----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

ケータイからでも 情報配信中!!

携帯電話でも愛媛の観光スポット情報を配信中心エリアやジャンルで絞り込めるので、あなたの目的に合わせた検索が可能です。

今すぐアクセス!!
docomo, au, softbank
3キャリア対応

QRコード

スマートフォン、タブレット端末での閲覧も可能。詳しくは「道後温泉地域でのICT利活用推進実績」をご覧ください。

VI 道後温泉地域での観光面での ICT 活用 課題 と 目標

目標:道後温泉歴史漂う景観まちづくり道後百年の“景”の具現化を図る。

■道後温泉誇れるまちづくりのコンセプト

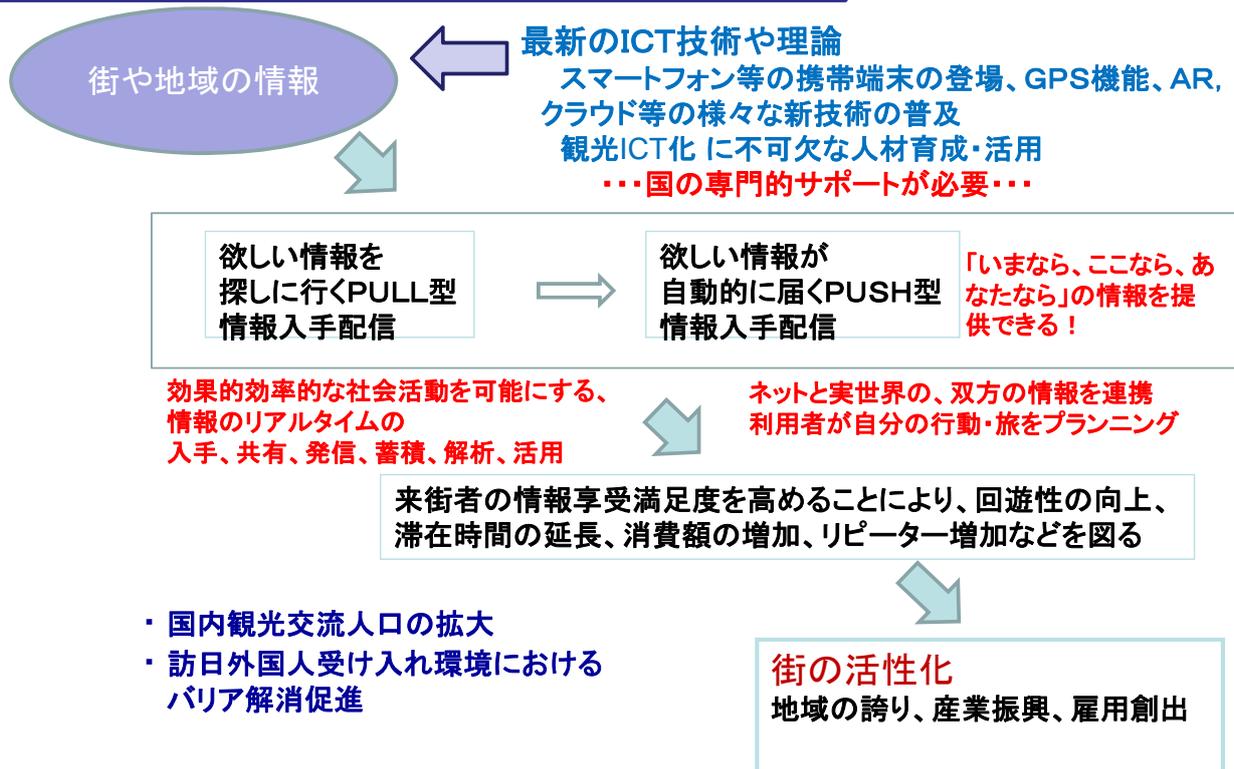
- 1 「日常の人の営みを魅力化することが、人の心を動かす魅力的な景観づくりである」ことを認識し、おもてなしの“気持ち”を“かたち”に表現する。
- 2 道後温泉歴史漂う景観まちづくり推進のため、「ファサード整備」と行政との協働により「景観計画の順守」を図る。
- 3 道後は温泉地との原点に立ち返り、事業者が主体となりお客様満足度を高め、滞在時間の延長と交流人口の増大を図る。
- 4 地域を挙げたホスピタリティマネジメントによる地域の活性化を推進する。
- 5 道後温泉の歴史文化の豊かさを活かし 次代に引継いでいくため「坂の上の雲」の志を持ち続け、行動する。

ICTの活用

「ICT」=「街づくりを助ける技術」と位置づけ活用することで
変革を果たし、目標を実現する。

VI 道後温泉地域 観光面での ICT利活用の 課題と目標

これからの地域活性化の方向性…マッシュアップの進化



VI 道後温泉地域での観光面での ICT 活用 課題 と 目標

道後温泉が強化すべき取り組み … 国などへの基盤整備を要望

1 『GEN1000(げんせん)愛媛観光スポット』の充実

- ① 掲載ポイントの件数増 約20か所 ⇒ 200か所
- ② 閲覧機能の利便性(ニーズに応じたジャンル分け、ルート提案)
- ③ 情報の質的向上・鮮度維持

※2012年度県は同アプリを活用した情報発信強化に着手。
掲載情報を1000件に拡充し英・韓・中国語への対応も進める。



道後温泉本館

2 FeliCaシステム利用のワンストップサービス の実現

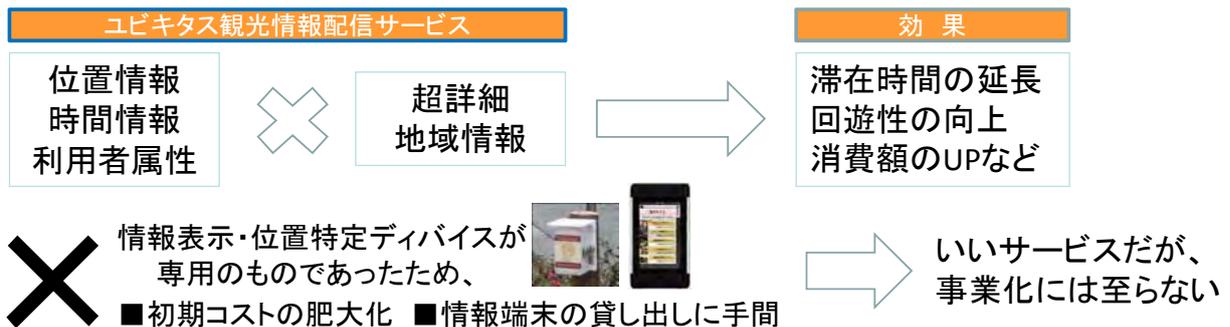
伊予鉄ICカードを利用した街歩き、松山はいく の展開

- ① 運用中の交通機関対象中心の利用に加え、「道後温泉本館」や「椿の湯」の外湯巡り、松山城や子規記念博物館などの公的機関も含めた街歩き、松山はいくなどの着地型旅行商品の販売、特典の付加や物販飲食施設での利用がFeliCaチップ搭載の携帯電話やICカードで使えるようにし、利用者の利便性を飛躍的に向上させる。
- ② この仕組みを使い、入浴客の導線分析に活用。外湯巡りやまち歩き、お買い物の順序や時間帯、回数などが分かり、利用者の性別・年齢や住所などと絡めた分析も可能。行動ログの分析等、エリアマーケティングのデータを活用した「PDCA理論」に基づく、観光事業展開が、これから一番重要。ICTを活用したデータ取得は、多方面の協力（例：個人情報保護の問題解決など）が必要。

城崎温泉で外湯巡りをとことん楽しむ特典機能満載の夢の外湯券 **ゆめぼ**が誕生。
紙の外湯券の代わりに、個人が持つFeliCaチップ搭載の携帯電話(おサイフケータイ)や、城崎温泉駅を管轄するJR西日本の「ICOCA」をはじめとするICカードが使える。宿泊する旅館などで利用登録をすると、翌朝のチェックアウトまで何度でも外湯に入浴可能。「ゆめぼ」は「城崎このさき100年会議」が運用するシステム。共同運用：豊岡市城崎総合支所温泉課

3 NFC機能を活用して、ユビキタス観光情報配信サービスを実施

<背景>



<今後の展開>

●NFC機能を活用して、同様なユビキタス観光情報配信サービスを実施する
Near Field Communication



東京都などが、銀座「ココシル」
実証実験等でサービス展開中

専用アプリを入れた
NFC機能付きスマホを
街角のRFIDにかざせば
位置情報を把握して、
詳細情報が表示される



比較的
低コストで
実現

VI 道後温泉地域での観光面での ICT 活用 課題 と 目標

<システムの特徴>

- NFCは、世界標準規格で、今後、NFC機能を搭載したスマホの普及が予想される
- RFIDは、安価で長期間に渡って利用できる。これをトリガーに様々な情報を提供できる
GPSが感知できない商店街や建物内でも、非常に正確な位置出しができる



<サービスの実現にあたって…環境整備>

- コンテンツは、既存のデータベースを利用。情報収集用オーサリングツールも既存のもの利用
- 情報端末は、観光客のスマホを利用 → 全国どこに行っても使えるように標準化、多言語化
- サービス用専用アプリの開発 → アプリダウンロードの告知活動
- **RFIDインフラ網の構築 → 街中のあらゆる場所にRFIDを貼っていく**

実現性が高く、サービスの提供に時間がかからない ⇒ 全国横展開が可能

<観光面以外でのRFIDインフラ網の副次的活用方法>

- 非常時には、一番近い避難所を表示し、その場所へ誘導
- 子供が遊び感覚でタッチしていけば、登下校時の見守りにも
- RFIDが、信号機、標識、ガードレール、橋梁などに付いていれば、公物管理にも利用可能

